

サシバエ発生に備えましょう

サシバエは秋口に多くなるイメージがありますが、実はその発生は春先から始まっています。サシバエはストレスや痛みの原因となるばかりか、牛伝染性リンパ腫（旧牛白血病）などの感染症を媒介することでも知られています。昨年11月に国内ではじめて確認されたランピースキン病もサシバエが媒介します。春先に向けてサシバエ対策の準備をし、牛を病気やストレスから守りましょう。

サシバエってどんな生き物？

- ♠ 飛翔能力が高く（約4 km）、雄雌ともに針状の口で吸血し、牛及び人への被害あり
- ♠ 牛舎近くに生息し、発生源は少し古めの糞
- ♠ 卵から2週程度で成虫へ、成虫は2～3か月程度の寿命
- ♠ 生涯600個近く産卵し、繁殖性が高い
- ♠ 蛹は越冬する

実際、どんな被害があるの？

- ♣ サシバエが増えると、牛は立ったまま尻尾を振りまわし、皮膚を振るわせ、痛さと戦います。そのため、落ち着いて寝むれず、反芻もしてられません
➡ 食い込めない、増体が落ちる、乳量が落ちる、発育停滞につながります
- ♣ サシバエは感染症も媒介します
➡ 媒介する感染症：ランピースキン病、牛伝染性リンパ腫（旧牛白血病）等々



☆ランピースキン病に関する情報は以下のHPで確認できます

農林水産省 HP

<https://www.maff.go.jp/j/syoutan/douei/lst.html>

【ランピースキン病とは】

- ・発熱、乳量の低下、皮膚に結節が生じる牛の病気で、致死率は低く、ほとんどの牛が徐々に回復する
- ・サシバエ等の吸血昆虫が感染を拡大する
- ・国では有効なワクチンを備蓄しており、都道府県知事が発生状況等によりワクチン接種が必要と判断した場合に、緊急的に接種が行われます

対策で重要なのは発生源対策と幼虫対策

サシバエは成虫になるとあっという間に数が増えるため、それからでは対策が追いつきません。産卵場所（発生源）や卵・幼虫の段階で早めに対策を取ることが重要です。

対策方法は？

◆発生源対策でサシバエの住みにくい環境づくりを！

糞の適正な処理

- ・堆肥の切り替えしは隔々まで
- ・畜舎内清掃

◆幼虫（ウジ）対策で成虫になる数を減らそう！

昆虫成長抑制剤（IGR 製剤）等の散布

- ・毎月最低 2 回の散布
- ・畜舎周辺やバークリーナー上、堆肥場等に散布

◆成虫対策でできるだけ実害を減らそう！

- ・市販の粘着シートや粘着トラップの活用
- ・防虫ネットの設置

サシバエ対策は成虫になる前の期間に行うことが重要です。
まずは発生源対策と幼虫対策から取り組みましょう！！

【サシバエ要注意箇所】



さなぎ；乾いた場所
例）空き牛舎、ません棒の下等



ウジ；湿った場所
例）飼槽の隅、ゴムマットの下等

ご不明な点はかかりつけの獣医師もしくは家畜保健衛生所にご相談ください

最上家畜保健衛生所 電話 0233-29-1357（休日・夜間も対応）